Take Free ご自由にお持ち帰りください

理念

生命を安心して預けられる病院　健康と生活を守る病院
「あなたとあなたの家族によりそう」「安全　快適　自己実現」

医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院

広報誌

よりそう

vol.38

医療技術の進歩と共に成長する医療従事者の学びの機会を大事にし、個々の学習意欲を大切に、そして“よりそい”、病院機能を強化しています。



2023年９月には、徳洲会グループが開催する日本救急医学会認定のICLS（心停止緊急救命処置）コースを当院で開催。多職種に渡り、たくさんの職員が受講しました。





医師紹介　2023.07 着任

心臓血管外科

池田 昌弘 医師



■主たる専門医

・外科学会専門医
・心臓血管外科専門医
・腹部ステントグラフト実施医

ご挨拶

私たち仙台徳洲会病院心臓血管外科は高齢化の進む日本社会において加齢がリスクファクターで、緊急性の高い循環器系疾患に対する心臓血管外科的治療の必要性にこたえるべく、可能な限り診療を進めております。

従来心臓手術は、手技の煩雑さやその侵襲の高さのため、術中のリスクや術後の後遺症やリハビリの長さなどが懸念され、手術適応が患者様の状況や術者の経験によっても左右されてきましたが、現在の心臓手術における侵襲やリスクは、手術の工夫や進歩、人工心肺等の機械の向上、術中術後管理の工夫によって急速に改善しています。そのため侵襲の高い手術であってもそれほど術後のリハビリの苦労はなくなり、また可能な限り低侵襲の手術方法も開発されています。

当科としましても外科医の責任としてはやはり外科医しか求められない上記の世界最高の健康寿命と平均余命を全うできる生命予後と生活の質の改善にプライオリティがあると考えております。今後の生命予後のため侵襲が高い手術が必要な患者様には術後の苦労が少なくなるような高度な手術の工夫や、高齢やほかの合併症などで高い侵襲をどうしても避けたい患者様は可能であれば低侵襲の手術（MICS*等）を心がけています。

＊低侵襲心臓手術（MICS）：従来の心臓手術は胸骨を切開する胸骨正中切開法で行われ、人工心肺装置を用いて心臓の拍動を停止させます。いずれも体への負担は決して軽いとは言えません。近年、そのどちらか、または両方を行わない低侵襲心臓手術（minimally invasive cardiac surgery, MICS）が行われています。MICSのメリットは美容的に優れている点だけでなく、出血、術後疼痛、感染症などの様々な術後合併症のリスクを軽減する可能性があるところにもあります。もちろんすべての患者さんがMICSでできるわけではありませんが、我々も積極的に低侵襲手術に取り組んでおります。

＜前施設での手術件数（2022年）＞

2022年1月からのOPCAB症例数	
平均吻合数	237
死亡率	201
主要心血管イベント	164

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）　※前施設での実績

心拍動下冠動脈バイパス術（Off-pump CABG, OPCAB）

従来人工心肺使用心停止下に行っていた冠動脈バイパス手術を人工心肺を用いず心臓が拍動した状態で行う手術です。当科におきましてはこのOPCABで、かつ長期開存率の高い両側内胸動脈を含めた動脈グラフト中心の多枝バイパスを基本術式としています。

2022年1月からのOPCAB症例数死亡率	39
平均吻合数	3.30本
死亡率	0
主要心血管イベント	0

僧帽弁閉鎖不全症　※前施設での実績

僧帽弁形成術を基本術式としています。単弁の形成術はMICS MVP（下記）とし、三尖弁手術や不整脈手術などの他の手術も必要なときは正中切開を基本とします。

2022年1月からの僧帽弁手術	32
僧帽弁形成術	22
MAZE併用	13
MICS-MVP	7
死亡率	0
主要心血管イベント	0

心臓血管外科の主な対象疾患

冠動脈疾患：狭心症、心筋梗塞、心筋梗塞合併症（心破裂、心室中隔穿孔、乳頭筋断裂、左室瘤、虚血性心筋症など）
弁　膜　症：大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、三尖弁閉鎖不全症など
不　整　脈：心房細動、心房粗動など
大動脈疾患：胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、急性大動脈解離など

肝臓内科

近藤 泰輝 医師



主たる学術認定・専門医

- 日本内視鏡学会
- 日本移植学会員(認定医)
- 日本免疫学会員
- 日本消化器病学会
  (専門医、指導医、東北支部評議、学会評議員)
- 日本内科学会(指導医、認定医、総合内科専門医)
- 日本肝臓学会
  (専門医、指導医、東部会評議員、全国評議員(代議員))
- 日本超音波学会員
- 日本がん学会員
- がん治療認定医機構(認定医、指導医)
- 肝癌治療研究会員
- 肝移植研究会員
- ウイルス学会員
- アメリカ肝臓学会(国際メンバー、フェロー)
- アジア太平洋肝臓学会(メンバー)
- アブレーション研究会(幹事)

2000年 東北大学医学部 医学
2006年 東北大学医学系研究科医学学専攻 消化器病態学分野
2000年 – 2002年 古川市立病院 研修医
2002年 – 2005年 東北大学大学院 消化器病態学分野
2005年 – 2007年 南カリフォルニア大学 分子微生物学教室
2007年 – 2011年11月 東北大学病院 消化器内科 医員
2011年11月 – 2015年12月 東北大学病院 消化器内科 助教
2016年1月 – 2016年3月 東北大学医学部 消化器病態学分野 非常勤講師
2016年1月 – 2019年3月 仙台厚生病院 肝臓内科 主任部長
2016年4月 – 2020年9月 名古屋市立大学 ウイルス学 研究員
2017年4月 – 2023年5月 仙台厚生病院 肝腫瘍治療センター センター長
2019年4月 – 2023年5月 仙台厚生病院 肝臓内科 科長
2020年9月 – 現在 熊本大学 消化器内科学講座 客員准教授
2023年6月 – 現在 仙台徳洲会病院 肝臓内科 副院長

DOCTOR´S　INTERVIEW

仙台徳洲会病院は近藤泰輝副院長を迎え、新たに肝臓内科を開設しました。同科では肝炎から肝硬変、肝臓がんと切れ目のない医療を提供。高齢かつ難治例の患者さんにも、日々進歩する多彩な内科的治療を積極的に行い、地域の“最後の砦”を担い、貢献したいとの思いを改めてインタビューしました。



「肝臓がんは治療が難しく、治療法があるのに緩和医療を勧められることもあります。がん難民となり、行き場を失った患者さんの“最後の砦”としての役割を果たしていきたい」 と、近藤副院長と意気込みを話す。

当院では肝臓内科では、薬物療法に限らず、ラジオ波焼灼療法やマイクロ波凝固療法、経皮的肝動脈化学塞栓療法（TACE）など多くの内科的治療に対応できるのが特徴だ。TACEは足の付け根や腕の動脈からカテーテルを挿入し、肝臓内の腫瘍を栄養する細い動脈に抗がん剤などを入れて動脈の血流を遮断し、腫瘍細胞を壊死させる方法。バルーンカテーテルを用いた方法や薬剤溶出性ビーズ（DEB）を用いた治療をうまく組み合わせることにより、巨大な肝細胞がんに対しても治療効果が得られる。

近藤副院長は、**「当科に紹介される患者さんは、様々な治療で効果の出なかった症例が多いので、専門に偏った治療法だけを提供していては、満足いく延命効果を達成することは難しい。今は肝臓に対するIVR（画像下治療）を１カ月で40件ほど実施していますが、このペースで進めば、日本でトップレベルの件数になると思います」**とアピールする。

近藤副院長は前職でも肝臓内科の立ち上げを行ったが、今回はその時のノウハウを用い、院内のチーム作りや地域の連携強化を図っている。「当院のスタッフも、自ら考えて動いてくれるので助かっていますが、改善すべきところはスピード感をもって対応しています。今後は地域へのアピールを積極的に行うと同時に、全国からも患者さんが集まるくらいの医療を提供していきたい」と意気軒高だ。

肝臓内科で扱う主な症例

急性肝炎、劇症肝炎
●A型肝炎　●B型肝炎　●E型肝炎　●アルコール性肝炎

慢性肝炎　●B型ウイルス性肝炎　●C型ウイルス性肝炎　●脂肪性肝障害
●アルコール性肝障害　●自己免疫性肝炎　●原発性胆汁性肝硬変
●薬物性肝障害肝硬変

肝硬変　●肝硬変による血小板減少症
●肝硬変による門脈圧亢進症（食道静脈瘤、胃静脈瘤、シャント）
●難治性腹水　●肝性脳症

悪性肝腫瘍　●肝細胞癌　●肝内胆管癌　●嚢胞腺癌　●転移性肝癌

他肝疾患　●肝膿瘍　●巨大肝のう胞　●多発肝のう胞

写真で振り返る センタクデキゴト

看護部　救護応援

仙台徳洲会病院は地域のイベント開催時の救護活動を積極的に行っております。直近では、８月26日の「泉区民ふるさと祭り」、８月31日から４日間で開催された「車いすテニス大会」に看護師を派遣し、救護活動に従事しました。基本的にイベント運営側からの要請に応える形での協力となりますが、車いすテニス大会に関しては、同院職員が運営のひとりとして関わっているため、同院も救護という形で参加しています。

自然観察会 ～七北田公園アドベンチャー～

泉青年会議所様主催の七北田公園の自然と直接触れ合う機会をとの事で開催されたイベントです。参加者は、小学４・５・６年生とそのご家族。活発に走り回るあまり、転倒する参加者もいましたが、手術室の伊藤雄大さんの救護によって大事には至らず、みなさん有意義な体験となったようです。



第41回 泉区民ふるさとまつり

救護所へは、転倒による「すり傷」や「虫刺され」などで来られるお子様がほとんどでした。楽しい思い出をたくさん作ってもらえるよう手際よく、ケガの部位に合わせ絆創膏を迅速に選んだり、ポイズンリムーバーを用いて処置をしたのは、手術室で看護師として活躍している石徹白さん。猛暑日の中、長丁場でしたが活躍頂きました。









第28回 国際車いすテニス大会「SENDAI OPEN 2023」



国際大会とあって他国の選手も参加し、車いすに乗っている事を感じさせない俊敏な動きでプレーをする選手達。病院の車いすとは違ったそれぞれに合った特殊仕様とはいえ、自分の足のように操作するのは至難の技。車いすをしっかり操作しながら激しく打ち合う姿からは、練習に打ち込んでいる日々の努力が垣間見れました。







車いすテニス大会の救護応援に参加された看護師さんたち







佐藤裕恵 看護部長より ヒトコト



地域への社会貢献として、救護活動は継続的に実施しています。毎年行われるイベントの救護活動は、当院にとっても季節の恒例行事です。現場に看護師がいることで、参加者は安心してイベントを楽しんでいただけますし、何かあった際には当院に搬送できるバックアップ体制があることで、より安心感をもっていただけると思います。今後も地域に根差した病院を目指す当院の役割として、地域のイベントは積極的にサポートしていきたいと考えています。

オンライン医療講演のお知らせ



主な講演テーマ

※オンライン講演は無料で視聴できますが、通信費用は参加者様のご負担となります。

- お薬の正しい付き合い方
- お口の病気あれこれ
- 小児の予防接種
- 無痛MRI乳がん検診
- 大腸がん ～ダヴィンチ手術～
- 低線量肺がんCT
- 口腔乾燥症 etc...
- 逆流性食道炎
- 下肢静脈瘤の最新治療
- 甲状腺の病気
- 白内障
- 通所リハビリ ～楽しむ健康体操～
- 新たに開設・肝臓内科 肝臓がん治療とは

ご登録不要。となたでもご視聴頂けます。ご視聴方法はQRコードから。



当院ではMRIを用いた乳がん検診「ドゥイブス・サーチ」をはじめました。

ご予約はWEBまたはTELにて受付

予防医学センター（直通）　✆022-771-5117

編集後記

猛暑日が続いたと思ったら、秋を通り越して冬がすぐそこまで来ているかのような寒暖差が身にしみますが、いかがお過ごしでしょうか。寒くなると血管障害が起こりやすくなりますので、日頃から運動されている方も、寒い時は無理せず体調に合わせてお過ごし下さい。

地域連携室／千葉　英二

基幹型臨床研修病院の役割

当院は、厚生労働省より基幹型臨床研修病院の指定の元、現在は初期研修医２年次２名・１年次５名を受け入れており、臨床研修協力病院・施設と連携した研修プログラムを充実させ、患者さまに対して、安心でより質の高い医療を行える医師を育成してまいります。基幹型臨床研修病院の責務として、地域における中核的医療機関として更なる充実に努めて参りますので、何卒ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

医療法人徳洲会 **仙台徳洲会病院**

〒981-3116　宮城県仙台市泉区高玉町９-８
TEL：022-771-5111(代表)　FAX：022-771-5100
HPアドレス https://sendai.tokushukai.jp/

2023年（令和５年）10月発行
医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 広報誌
編集・発行：地域連携室
印　刷　所：モリタ印刷株式会社

仙台徳洲会病院 **看護部** Instagram